

＜感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止＞
感染対策の基礎知識と具体策

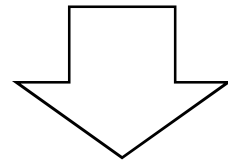
～結核～

この研修の目的

- ・ 結核の発生要因を理解し、その予防に努めることができるようになる。
- ・ 結核発生時の対応を学び、症状悪化や二次感染を予防できるようになる。

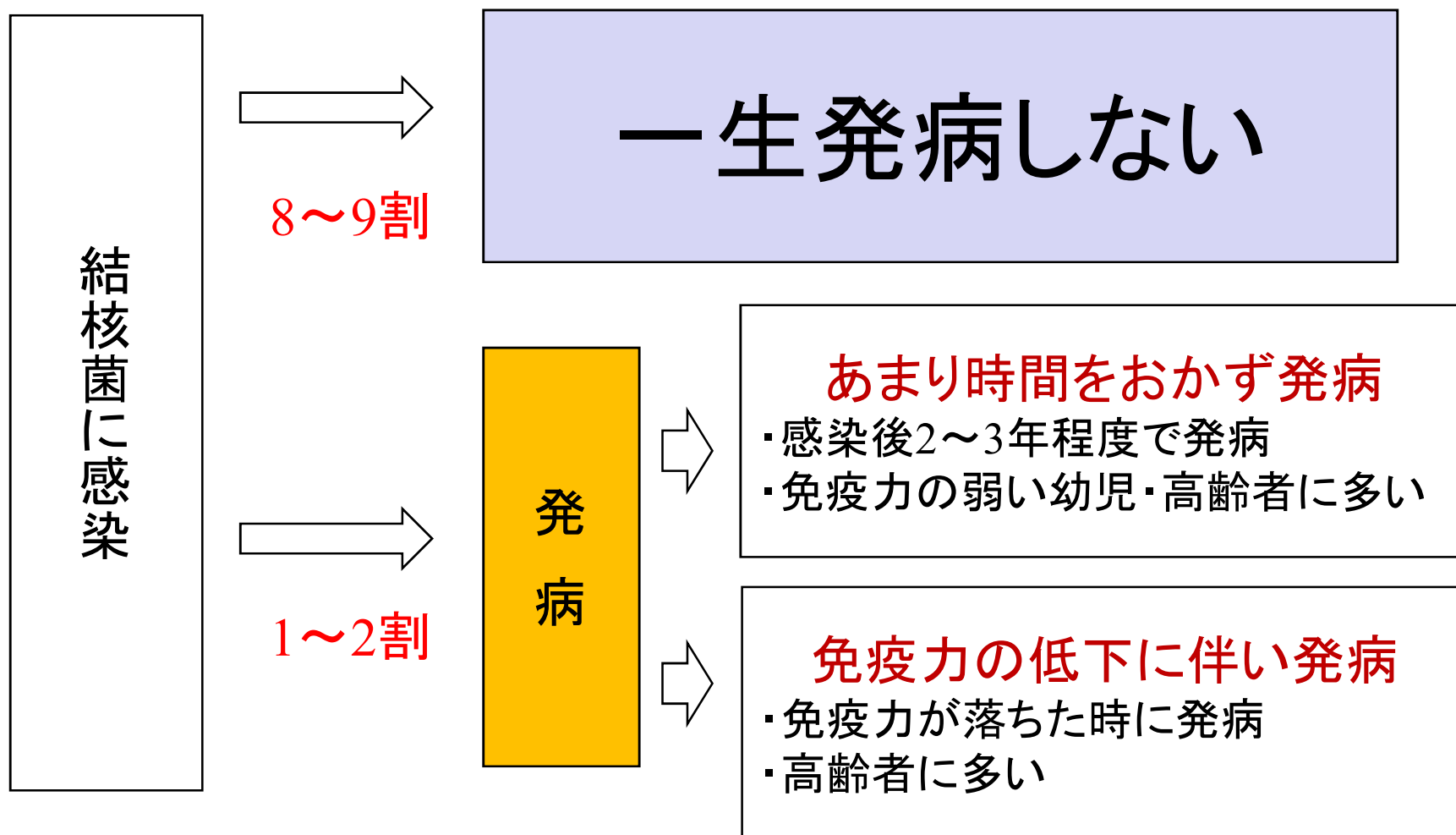
結核とは

- ・ 「結核菌」が体に入る ⇒ 感染
- ・ 抵抗力が弱まると結核菌が増える ⇒ 発病
⇒ 発病した場合は空気感染する



結核菌が体内にあっても、発病しなければ
他人へ感染させる危険性はない

結核に感染するとどうなる？



結核の症状

- ・ 初期は、**咳、痰、発熱**など、風邪と似た症状が現れる
- ・ 悪化すると、**倦怠感、食欲低下、息切れ、血痰**などの症状が現れる
⇒ さらに進行すると、**喀血**や**呼吸困難**に陥り、**死に至る**こともある

高齢者ははっきりとした症状が出にくい
⇒ **風邪症状**が長く続く場合は注意

介護施設での結核発生例

- ・ 100名定員の施設に入居していた70歳代の男性
- ・ 咳、痰、微熱などの**風邪症状**が長く続き、主治医を受診したが**改善せず**
 - ⇒ その後、**肺炎**となり入院
- ・ 入院先より、「**結核の疑い**があるため、専門病院に転送する」との連絡が入り事態を把握
 - ⇒ 転院先にて「**結核**」の確定診断
- ・ 施設では保健所の立入検査を実施
 - ⇒ 利用者への感染はなく、**職員3名の感染**を確認
- ・ 施設は感染対策の改善を求められ、改善が認められるまで**2ヶ月間程新規受入れを停止**
 - ⇒ 感染した職員には施設加入の保険が適用された

結核が発病するとどうなる？

①入居者・利用者への影響

- ・ 専門病院での受診や入院が必要となる
 - ・ 発病者の8割程度が肺結核となる
 - ・ 重症化すると死に至ることもある
 - ・ 結核の集団感染は、その25%程度が高齢者施設や病院で発生している
- ⇒ 早期発見、早期対応が求められる

結核が発生するとどうなる？

②職員への影響

- ・ 結核病院への搬送や通院治療が必要となるため、職員の労働量が増える
- ・ 感染者に関わった職員は感染の可能性があるため、**精神的なストレス**が強く生じる
- ・ 職員が感染していた場合には、発病しないよう**予防内服**が必要となる
- ・ 発病した場合には、**数か月間に渡り**治療が必要となる

結核が発生するとどうなる？

③施設運営への影響

- ・ 感染者の発生を**保健所**に報告し、その後の**対応方法**を協議する
 - ⇒ 発生源や拡大の程度を把握するまでは、利用者の**新規受入れを停止**する必要があるため、**収入が減少**する
- ・ マスクなどの準備で**多額の出費**を伴う
- ・ 保健所からの公表、新聞やテレビで報道などがあると、施設に対する**信用**を失う
 - ⇒ 以降の運営に大きな影響を及ぼす

結核の感染拡大予防策

① 咳エチケットの徹底

職員、利用者、面会者など、施設内に立ち入る方全てに咳エチケットの徹底を図る

⇒ 結核だけでなく、風邪やインフルエンザなどの感染症予防にもなる

② 職員の健康管理

年1回、非常勤職員を含む全職員が、健康診断を受診する

結核の感染拡大予防策

③ N95マスクを準備する

平常時から着用訓練を行い、保管場所や着用のルールを決めておく必要がある

<N95マスクとは>

0.1～0.3 μ mの微粒子を95%以上除去するため、結核の飛沫核(空気)感染の防止に役立つ

④ 入所時の健康診断、既往歴の確認

結核の既往歴やそれを疑う症状、免疫力の低下を伴う基礎疾患などの有無を確認する

⇒ 施設内への結核菌の持ち込みを防ぐ

結核の感染拡大予防策

⑤ 適切な状態観察

咳、痰、発熱、胸痛などの症状が2週間以上続く場合には結核を疑い、マスクの着用を促す
⇒ 感染拡大の危険性が減少する

⑥ 施設内感染対策マニュアルの徹底

マニュアルを徹底するとともに、年に1回は施設内の感染対策委員会などで内容を見直し、必要に応じて修正する

咳エチケット

- ・ 自身が咳やくしゃみをしている時は**マスク**を着用する
 - ・ 咳やくしゃみをする時、マスクを着用していない場合には、ティッシュやハンカチなどで**口と鼻**を押さえ、他の人から**顔を背け**、離れる
- ⇒ 鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐに**蓋つきのゴミ箱**に捨てる

N95マスク装着方法(カップ型)



- ① マスクの鼻あてを指のほうにして、ゴムバンドが下にたれるように、カップ状に持ちます。



- ② 鼻あてを上にしてマスクがあごを包むようにかぶせます。



- ③ 上側のゴムバンドを頭頂部近くにかかけます。



- ④ 下側のゴムバンドを首の後ろにかかけます。

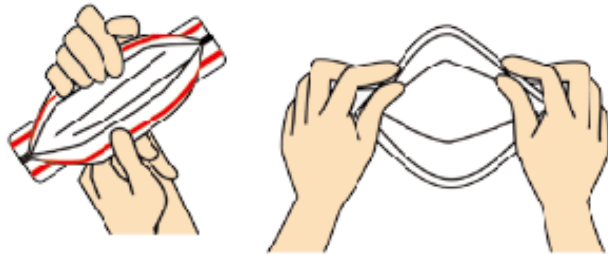


- ⑤ 両手で鼻あてを押さえながら、指先で押さえつけるようにして鼻あてを鼻の形に合わせます。



- ⑥ 両手でマスク全体をおおい、息を強く出し空気が漏れていないかユーザーシールチェックを行います。

N95マスク装着方法(三つ折り型)



- ① マスクの上下を確認し、広げます。ノーズワイヤにゆるやかなカーブをつけます。



- ② 鼻とあごを覆います



- ③ マスクを押さえながら上ゴムバンドを頭頂部へ、下ゴムバンドを首まわりにつけます。



- ④ マスクを上下に広げ、鼻とあごを確実に覆います。



- ⑤ 両手の指で鼻あてが鼻に密着するように軽く押し込みます。



- ⑥ 両手でマスクを覆い、空気漏れをチェックして密着のよい位置にマスクを合わせます。

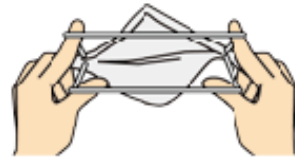
N95マスク装着方法(くちばし型)



① マスクを上下に下げ、ノーズワイヤーにゆるいカーブをつけます。



② マスクを上に掲げ、ゴムバンドをたらしめます。



③ 人差し指と親指で2本のゴムバンドを分けます。



④ ゴムバンドを指で把持しながら、顎の下にマスクを当てます。



⑤ ゴムバンドを引き上げ、頭頂部と首の後ろにバンドをかけます。



⑥ 2本のゴムの角度は90度になるようにします。



⑦ ノーズワイヤを指で押し当て、鼻の形に合わせる。



⑧ ユーザーシールチェックを行い、フィットを確認します。

結核にいち早く気づくために 観察のポイント

- ・ 施設では、感染症そのものを無くすことは難しい
- ・ 異常の早期発見に向け、入所者の普段の様子を把握しておくことが重要

ポイントは？

以下のような症状が**2週間以上**続く場合には、看護師に報告し、早期受診につなげる。

【咳】 【発熱】 【痰】 【血痰】 【胸痛】 【食欲低下】

「普段の様子と違う」と感じたら、すぐに報告！

結核発生時の対応

結核は感染拡大しやすいことを理解し、それを疑う症状が出た場合には、**早期受診**を心掛ける

① 結核の疑い→診断まで

＜咳が出ている場合＞

- ・**サージカルマスク**を着用してもらう
- ・**個室管理**を行い居室の**換気**を十分に行う
- ・他者との**接触を制限**する
- ・職員が接触する場合は**N95マスク**を着用する

② 診断後

管理者は管轄保健所へ結核の発生を報告

結核発生時の対応

③ 専門病院での入院治療または通院治療の開始
専門病院へ搬送する職員はN95マスクを着用し、車内は常に換気する

④ 感染対策委員会での協議
施設利用者や職員の健康状態を確認し、情報収集に努める

⇒ 同時に、利用者や家族、職員が不安にならないよう配慮する

結核発生時の対応

⑤ 事後対応の検討

集めた情報を基に主治医、保健所と協議し、感染者と関わった頻度が高い利用者、職員は受診するよう説明する

⇒ 求めに応じ、利用者や職員の名簿などを保健所へ提出

⇒ 以降も保健所との連携を継続する

結核発生の際には、**医師・保健所**と連携し、適切な対応を行うこと！

結核予防における 介護職の役割

- ・ 高齢者施設での結核対策の基本は、「**早期発見**」と「**発病の予防**」とされています
- ・ 感染症の確かな知識と情報、**スタンダードプリコーション**（標準予防策）や予防具着用を適切に行える技術を持ち、重要なサインを見逃さないようにしましょう
- ・ 「結核は昔の病気」という認識は改め、感染症予防の視点から、日頃から適切な対応を心掛けましょう

お疲れ様でした。

引用・参考文献

①職業感染制御研究会(JRGOICP)

<http://jrgoicp.umin.ac.jp/> (N95マスク装着方法について)

(2018年8月閲覧)

②公益財団法人結核予防会結核研究所

<http://www.jata.or.jp/>「高齢者施設・介護職員対象の結核ハンドブック」

(2018年8月閲覧)

③厚生労働省ホームページ

「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」

<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/tp0628-1/>

(2018年8月閲覧)

【教材作成】

社会福祉法人創誠会

特別養護老人ホーム あかり

施設長 渡邊尚太